

## は じ め に

放送利用の大学教育は、イギリスのオープン・ユニバーシティーの壮大な試みがもっとも良く知られている。本センターでは、昨年11月に実施したシンポジウムに、その創設の総指揮をとったウォルター・ペリー前学長を招いて、新たな教官スタッフの募集にあたっての考え方、非伝統的な学生に対する革新的な遠隔教育方法の開発、さらには学習者のペースメーカーとしての放送の活用などについて、示唆に富んだ講演をお願いすることができた。ついで、今年の春から夏にかけて本センターの若松教授がオープン・ユニバーシティーを訪問し、特にそのチュートリアルを中心に視察し討議を行ってきた。本号には若松教授の報告を掲載する。若松教授の報告は、ドイツ、カナダ及びアメリカの大学の放送利用におけるチュートリアルについてもふれている。

創業においてはイギリスに先行し、放送番組の比重においてはイギリス以上ともいえる経験がいくつかのアメリカのコミュニティー・カレッジによって実施された。その嚆矢は、シカゴTVカレッジであって、その後いくつかの大学のコンソーシアムが発展し、さらに、いわゆるテレコースがカリフォルニア、フロリダ、テキサスなどのコミュニティー・カレッジにおいて広く実施され、その発展には、オープン・ユニバーシティーの成果が色濃く反映している。本センターでは、日本学術振興会の協力を得て、シカゴTVカレッジ創業時の責任者ジェームズ・ジグレル教授を招聘し、3回にわたって核心にふれる講演を願った。「イギリス公開大学から学ぶこと」、「アメリカにおける高等放送教育の経験」及び「アメリカにおける放送生涯学習の将来」の三つの講演を翻訳し、ここに掲載する。

また、高等教育の放送利用は、膨大な地域に少数の住民が散在するカナダにおいて、独得の発展をみている。教育実施の責任と権限が各州に委ねられているカナダにおいては、州ごとにその体制が異なっている。本センターでは、特に放送利用の発達しているオンタリオ、ケベック、アルバータ、ブリティッシュ・コロンビアの各州の中、州内の高等教育機関による放送についてはクリアリング・ハウスたる一機関に調整と実施の機能を委ねているブリティッシュ・コロンビア州の場合について、放送教育の実施機関であるノレッジ・ネットワークの番組調整担当の常務理事カスリーン・フォーサイス女史に来日願い、その概要を説明願った。女史の講演をとりまとめ、翻訳して掲載した。

これらの報告が、わが国の放送利用による大学教育の企画になんらかの参考になれば幸甚である。